

2005年3月15日(火)

夕刊 東奥日報 掲載

国内初のミニ巻き網船団本船

第88惣宝丸、八戸港出港

福島漁業 効率経営目指す

国の規制緩和を受け、八戸市の福島漁業(福島哲男社長)が国内初となるミニ巻き網船団の本船として建造した「第88惣宝丸」(三〇〇ト)が十五日午前十時半、関係者や市民の見送りを受けて八戸港を出港した。船団を従来の四隻から二隻に半減してコストを抑え、水産資源が減少する中で少量漁獲で経営が成り立つことを目指しており、全国の業界から注目を集めている。今月下旬からマグロ、カツオ漁に入る。



漁船漁業の画期的な経営改善へ、関係者の期待を集める第88惣宝丸

第88惣宝丸は網船のほか、魚群を探し出す探索船、運搬船の機能を併せ持つ。建造費は約十五億円。運搬船一隻とともに一カ統二隻体制とし、乗組員は第88惣宝丸に二十三人、運搬船十人の計三十三人となる。

十五日は八戸市の第三魚市場外岸壁で神事、もちまきがあり、関係者、市民や近隣の幼稚園児ら約六百人が詰め掛けて、たくさんの大漁旗をなびかせた第88惣宝丸を見送った。

従来の巻き網船団は網船、探索船二隻の運搬船による一カ統四隻体制が主流で、乗組員は合わせて五十人前後だった。

福島漁業の福島全良専務によると、これまでは国の規制により網船は一三五トが上限だったが、ミニ船団化により効率経営型漁業を目指すため、これより大きい本船の建造が可能になった。今回のミニ船団化で、人件費や燃料費などが大幅に圧縮でき、水揚げ金額は当初で年間九億一十億円、将来は減価償却が進んで